

「ボランティア交流会『わかんちゅ』」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
60名	60名	60名	60

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・ボランティア養成セミナーで学んだ内容のステップアップとして青少年野外教育施設等でのボランティア活動の役割について理解を深める。
- ・ボランティア活動に対する意欲を高める。
- ・当施設でのボランティア活動に必要な知識や技能を習得する。

◆期日・期間

2015年9月12日（土）～ 2015年9月14日（月） 2泊3日

◆後援・協力団体

なし

◆参加者分析

- ・若狭湾のボランティアが中心となって、企画を進め、フェイスブックなどのSNSを使い、全国のボランティアに声をかけて、参加者を募った。2名を除き、大学生である。

◆企画のポイント

日にち	午前	午後	夜	宿泊棟
9／11 (金)		16:00 前泊到着	準備・ミーティング (宿泊棟)	4、5号棟
9／12 (土)	受付※迎え希望 10:00 開海式 アイスブレイキング（大浜）	染め物（海学室）	キャンプファイヤー（大浜） ※職員支援希望 荒天：CS（トピーH）	4、5号棟
9／13 (日)	シーカヤック⑫ 森散策 荒天：プレイH	シーカヤック⑫ 森散策 荒天：プレイH	夜活動（オリ室） 情報交換会（研1）	4、5号棟
9／14 (月)	カッター② 12:30 閉海式 荒天：SG（プレイH等）	13:00 出発 ※送り希望		

- ・染物体験で作ったTシャツを3日目にカッターで着て、3日間の活動の締めくくりとした。また、シーカヤックと森散策を午前午後に入れ替えて、海の体験だけでなく、山にも目を向けさせて、若狭湾の自然を十分感じ取れる内容とした。

◆運営のポイント

- ・企画運営をボランティアが行い、施設職員はアドバイス、サポートメンバーとして関わった。海の活動であるシーカヤックとカッターについては、施設職員が直接指導して、運営するボランティアがサポートに回った。

◆安全管理のポイント

- ・事前の打ち合わせを重視して、運営するボランティア、施設スタッフが様々な安全管理について共通理解を図った。
- ・シーカヤック、キャンプファイヤーでは指導者を適切に配置することで、実習中の安全を図った。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	92%	8%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	92%	8%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	84%	13%	3%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声

- ・初めての体験が多く、とても楽しかったです（多数）
- ・全体的に見て、暖かい気持ちになりました。
- ・新しいボラと出会える機会になった。
- ・視野が広がった。
- ・ボラ側のスタッフと施設のスタッフがよく連携が取れていて、一体感のあるよいキャンプだった。
- ・参加者だけが待っているときがあった。ボラスタッフが先回りしてくれたらよかった。

4. 成果と課題

(1) 成果

若狭湾ボラの上級生に発案により始まった活動について、教育事業としてサポートしていく体制となった。金銭面でのフォローは教育効果が高い活動について教育事業費から出すことができた。全国のボランティアが互いに交流し、切磋琢磨する場を提供できたことは、大変有意義であったといえる。アンケートやコメントからも、他施設を見ることで気づくことが多い旨の発言が多くあった。

(2) 課題

教育事業として、今年度については若狭湾をよく知るメンバー（4回生中心）で、綿密に計画を立てて、実施にこぎつけた。次年度対象になる学年のメンバーに継続した取組になるよう呼びかけているが、実現性については不透明である。施設側が音頭をとるのではなく、自主性ができるだけ尊重して取り組むことが大切であると考えるので、次年度以降も直前に計画ができることが考えられる。

5. 活動の様子

